

2019年度 事業計画

平成30年度も、当会の諸事業・行事に多大なご理解・ご協力を賜り、無事終了することができましたこと、会員・賛助会員・関係各位の皆様にご感謝申し上げます。

平成が4月をもって終わりを迎えようとしています。新たな年号が間もなく発表される変革の年となります。当会も梨臨技維新となるような活動を展開したいと考えます。

平成30年度は役員・事務局も一新となり、新たな船出を迎えました。6月の新人研修会・総会を皮切りに、8月の「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」、9月のリフレッシュ研修会、10月の認知症対応力工場講習会B、11月には学術講習会を開催し、更に日臨技からの委託事業である公益事業として全国展開している「検査と健康展」を実施いたしました。健康展は評判も良く、臨床検査と臨床検査技師の認知度向上に繋がり、今年度も継続します。がん予防啓発キャンペーンは、健康増進課や放射線技師会との共催で盛り上がっていますので、今後も県技師会の独自事業として継続してまいります。11月に開催したSTI/HIV 予防啓発キャンペーンも、小瀬でのVF甲府の試合前に若手技師による活動が定着しています。また、好評であります山梨臨床検査フォーラムを、更なる学術向上の場、会員同士の団結・親睦の場として充実させたいと思います。フォーラムに併せて今年度も賀詞交歓会を開催いたします。県医学検査学会は、甲府B地区の担当で開催されました。今年はC地区の担当となります。また、若手技師の会「若梨部」も新たな発想、学術研鑽や相乗効果を持ち、若手技師の語らいの場となりニューリーダーを育成できるよう支援してまいります。日臨技事業としての新たな業務認証である「検体採取に関する厚労省指定講習会」につきましては、現在66%を超えた受講率ですが、会員全員の取得を目指します。新人教育研修も継続事業とし、「多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」を今年度も開催いたします。新人研修会は県独自事業として継続しつつ、日臨技による「初級職能開発講習会」も併せて開催いたします。更に、今後も国際学会での発表や国際交流、国際支援などにも力を注いでまいります。また、各種認定の取得に対しても、応援できる体制を整えたいと思います。災害対策も強化しなくてはなりません。当会は、県と「大規模災害時における人材派遣の協定」を結び、避難所等における健康検診を行うための訓練も実施いたします。

2025年問題や、病棟・在宅業務への進出に関しても準備を進め、チーム医療への参加を促していくことで、存在価値を高めねばなりません。認知症に関しても、臨床検査技師による関わりを深める必要があります。

昨年末には「検体検査の精度管理の義務化」が施行され、検体検査を実施しているすべての医療機関でこの対応に追われているところであります。

今年度も日臨技及び、支部内各県と連携を図り、首都圏支部と協働して、更に行政とのつながりを強化し、地域医療及び公衆衛生の向上と医学検査の発展に努めます。

2019年度の山梨県技師会は、以上のことを踏まえ、当会の目的を着実に推進すべく、下記の基本方針を軸に、公正で透明性の高い運営を目指します。

- 基本方針
- (1) 学術活動の推進
 - (2) 組織の強化・活性化
 - (3) 人材育成及び国際活動支援（認定取得支援を含む）
 - (4) 情報網の整備（災害対策を含む）
 - (5) 公益事業の推進と他関連団体との連携強化
 - (6) 県技師会主催事業の開催

1. 学術活動の推進

学術は、技師会活動の根幹を占めることから、学術部研究班活動を中心に、多くの会員が積極的に研修会に参加できるよう企画する。医学検査学会はC地区担当で開催される。山梨臨床検査フォーラムを更に充実し、別途「多職種連携職能開発研修会」を開催する。インフルエンザ等微生物の検体採取の講習会におけるライセンスの全員取得に取り組んでいく。また、関甲信支部・首都圏支部と連携をとりながら、更なる学術研修会の推進を図る。精度保証認証については、認証取得施設の普及を図りたい。共用基準範囲使用の普及も進める。

2. 組織の強化・活性化

地区理事を中心とした地区活動の強化・親睦を図り、技師会未加入技師の入会を図る。技師連盟への加入推進を図り、法渉関係の強化と臨床検査関連の国会議員の当選上積みを目指す。更に、OB会『銀の輪』の普及と加入推進を図る。「若梨部」を将来の技師会や施設を担って立つような人材を育成するため支援していく。今後、更に会員の比率が増す女性会員も積極的な技師会活動への参入を推進する。また、検査フォーラムのあと組織強化と親睦を目的とした懇親の場（賀詞交歓会）の充実・継続を図る。

3. 人材育成（認定取得支援を含む）及び国際活動支援

昨年度に引き続き、新人教育として公益事業への参加と研修会を実施し、日臨技及び公益活動への理解と、夜間・休日の検査ポイントの知識向上を図る。就職3年～10年程度の会員を対象とした「初級職能開発講習会」を日臨技と連携して開催する。認定取得に対しては、認定機構・認定センター・専門学会と連携をとり、研究班活動と共同で取得支援を推進する。学会抄録集がJ-STAGEに登録されたので、論文投稿にも協力していきたい。また、「若梨部」を中心にニューリーダーとなり得るような技師の発掘・育成、女性会員の育休後の教育支援、再就職に係る教育支援も希望を募り実施していきたい。更に、国際学会・国際交流・国際支援などへの活動に対しても積極的に支援していく。

4. 情報網の整理（災害対策含む）

昨今の大規模災害での教訓から、災害地域支援対策ネットワークを再構築し、来るべく災害に対処できるよう強化していく。更に、県と連携を図り、避難所等におけるDVD検診等健康検診の訓練を実施したい。HPの個人情報の保護・セキュリティ強化に努め、広報部と協働し、HPの更なる充実と迅速かつ的確な情報提供を推進する。

5. 公益事業の推進と他関連団体との連携強化

日臨技委託公益事業である「検査と健康展」の更なる充実、「がん予防啓発キャンペーン」「STI/HIV 予防啓発キャンペーン」による県民への健康増進活動で関連団体と連携し充実を図る。「がん予防啓発キャンペーン」では県健康増進課・放射線技師会と密に連携し、県民の健康増進の向上に寄与する。関連団体とは積極的に連携を図り、開かれた技師会を目指す。主に、例年同様、下記各種行事・事業への共催・参加・協力を促進していく。

- 1) 山梨県医師会精度管理調査事業
- 2) 山梨県健康増進事業への参加・協力
- 3) 日臨技及び関甲信支部、首都圏支部との連携・協力
- 4) 山梨県臨床検査医学研究会の共催
- 5) 医療関連団体、学会との連携・協力
- 6) 公益事業の推進・共催、公衆衛生向上への寄与

6. 県技師会主催・担当事業の開催

- 1) 県医学検査学会 担当；C地区（JCHO 山梨病院・国立病院機構甲府病院グループ）
- 2) 学術講習会 担当；郡内地区
- 3) リフレッシュ研修会 担当；峡南地区
- 4) 人材育成研修会（新人教育研修会・初級職能開発講習会）
- 5) 山梨臨床検査フォーラム
- 6) 検査と健康展・乳がん予防啓発キャンペーン
- 7) HIV/STI 予防啓発キャンペーン
- 8) 多職種連携
- 9) 認知症に関する研修会
- 10) その他